

January / February
2023 No.21

A Newsletter from SCGO-JSOG Project
on Women's Health and Cervical Cancer

カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

プノンペン市内の小学校教員への健康教育を実施しました

2023年2月1日・2日、プノンペン州教育局大会議室で、州内の小学校39校(約800名)の教員を対象に、健康教育セッションを実施しました。女性教員560名(全対象の73%)および男性教員42名の参加がありました。

各セッションは、教育局長と保健省事務次官補の挨拶の後、SCGO(カンボジア産婦人科学会)中堅医師による講義(30分)、休憩(20分)、小グループワーク(30分)、質疑応答(20分)の順に行われ、2日間で計4回実施しました。講義では、カンボジアにおける子宮頸がんの現状、小学校教員の子宮頸がんに関する意識調査の結果、女性器の解剖、子宮頸がんの原因(HPVとは)、予防方法(ワクチン接種と検診)、検診の詳細(対象者、受診間隔、検査陰性・陽性の意味)、治療について説明しました。質疑応答では、予防法を中心に多岐に渡る質問が挙げられ、鋭い質問やカンボジアらしいものも多くありました(表1)。プノンペン州教育局職員が総合司会やグループ分けなど全面的に協力してくれたため、各セッションともスムーズに終わることができました。また、JICAカンボジア事務所職員も見学に来られ、健康教育の様子は[Facebookを通じてクメール語で紹介](#)されました。

終了後、SCGO健康教育チームとのレビュー会議を行い、次回5月頃に予定する健康教育実施に向けた改善点を整理しました。多くの女性の検診機会につなげられるよう、活動を進めていきます。

(国立国際医療研究センター 神田 未和)



健康教育



質疑応答



小グループディスカッション

表1. 質疑応答で挙げられた質問のまとめ

1. HPV感染と子宮頸がん	<ul style="list-style-type: none"> • 独身でも子宮頸がん罹患することがあるか • 性交渉がまったくなくても/ほとんどなくても子宮頸がん罹患するか • 閉経後でも子宮頸がん罹患するか • 男性のHPV感染に対する治療はあるか • HPVは妊娠中や分娩時に子どもに感染するか 				
2. 子宮頸がんのリスク	<ul style="list-style-type: none"> • 遺伝するか • <u>(以下は子宮頸がんのリスクか?)</u> : 帝王切開の既往、子宮全摘術の既往、月経不順、子宮筋腫、コンジローマ、喫煙、添加物の多い食べ物の摂取、汚い水の使用、生理パッドの使用、避妊薬の使用、膣を収縮するための製品(膣剤、スティック型)の使用 				
3. 子宮頸がんの予防	<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="298 520 475 1075">HPVワクチン</td> <td data-bbox="475 520 1476 1075"> <ul style="list-style-type: none"> • 何歳で接種するのが効果的か • 男子も接種をしたほうがよいか • 30歳以上女性も接種をしたほうがよいか • 子どもへのワクチン効果はどれくらいか • 既婚成人女性・性交渉歴がある女性へのワクチンの効果はどれくらいか • 未婚成人女性へのワクチンの効果はどれくらいか • HPVに既に感染していても効果はあるか • 全てのハイリスクHPVに対してワクチンを接種する必要があるか • 接種による悪い影響(有害事象)はあるか • ワクチンは何回接種するべきか • 1回目と2回目の接種間隔はどのくらい開けるべきか • 2回接種後に追加で接種する必要はあるか • ワクチンの効果はどれくらい持続するか • ワクチン接種後、免疫がついたかどうかはどのように確認できるか • ワクチンを接種しても子宮頸がんになることはあるか • なぜ公共のメディアで啓発されていないのか • どこで接種できるか接種の費用はいくらか • 医療保険を使って接種できるか、できる場合はどの病院でできるか </td> </tr> <tr> <td data-bbox="298 1075 475 1598">子宮頸がん検診</td> <td data-bbox="475 1075 1476 1598"> <ul style="list-style-type: none"> • どの検診方法が1番有効か • 18歳でも検診を受けることができるか • 妊娠中でも検診を受けられるか • 検診はいつ受けるのが適切か(月経前、中、後) • ワクチン接種後でも、検診を受ける必要があるのか • 独身で性交渉がない場合でも、検診を受ける必要があるのか • 閉経後でも、検診を受ける必要があるのか • 自己採取はどのようにやるのか、キットはどこで購入できるのか • 検診は何歳になったら終了してよいか • 検診で陽性だった場合の治療は何か • Thermal ablationやLEEPはどのように行うか • Thermal ablationやLEEP後に妊娠はできるか • 妊娠中に検診で陽性だった場合も治療できるのか • 検診はいくらかかるか • 検診と治療は無料で受けられるか • 医療保険を使って検診を受けられるか、受けられる場合はどの病院でできるか • 保健省は検診を無料で提供する計画があるか </td> </tr> </tbody> </table>	HPVワクチン	<ul style="list-style-type: none"> • 何歳で接種するのが効果的か • 男子も接種をしたほうがよいか • 30歳以上女性も接種をしたほうがよいか • 子どもへのワクチン効果はどれくらいか • 既婚成人女性・性交渉歴がある女性へのワクチンの効果はどれくらいか • 未婚成人女性へのワクチンの効果はどれくらいか • HPVに既に感染していても効果はあるか • 全てのハイリスクHPVに対してワクチンを接種する必要があるか • 接種による悪い影響(有害事象)はあるか • ワクチンは何回接種するべきか • 1回目と2回目の接種間隔はどのくらい開けるべきか • 2回接種後に追加で接種する必要はあるか • ワクチンの効果はどれくらい持続するか • ワクチン接種後、免疫がついたかどうかはどのように確認できるか • ワクチンを接種しても子宮頸がんになることはあるか • なぜ公共のメディアで啓発されていないのか • どこで接種できるか接種の費用はいくらか • 医療保険を使って接種できるか、できる場合はどの病院でできるか 	子宮頸がん検診	<ul style="list-style-type: none"> • どの検診方法が1番有効か • 18歳でも検診を受けることができるか • 妊娠中でも検診を受けられるか • 検診はいつ受けるのが適切か(月経前、中、後) • ワクチン接種後でも、検診を受ける必要があるのか • 独身で性交渉がない場合でも、検診を受ける必要があるのか • 閉経後でも、検診を受ける必要があるのか • 自己採取はどのようにやるのか、キットはどこで購入できるのか • 検診は何歳になったら終了してよいか • 検診で陽性だった場合の治療は何か • Thermal ablationやLEEPはどのように行うか • Thermal ablationやLEEP後に妊娠はできるか • 妊娠中に検診で陽性だった場合も治療できるのか • 検診はいくらかかるか • 検診と治療は無料で受けられるか • 医療保険を使って検診を受けられるか、受けられる場合はどの病院でできるか • 保健省は検診を無料で提供する計画があるか
HPVワクチン	<ul style="list-style-type: none"> • 何歳で接種するのが効果的か • 男子も接種をしたほうがよいか • 30歳以上女性も接種をしたほうがよいか • 子どもへのワクチン効果はどれくらいか • 既婚成人女性・性交渉歴がある女性へのワクチンの効果はどれくらいか • 未婚成人女性へのワクチンの効果はどれくらいか • HPVに既に感染していても効果はあるか • 全てのハイリスクHPVに対してワクチンを接種する必要があるか • 接種による悪い影響(有害事象)はあるか • ワクチンは何回接種するべきか • 1回目と2回目の接種間隔はどのくらい開けるべきか • 2回接種後に追加で接種する必要はあるか • ワクチンの効果はどれくらい持続するか • ワクチン接種後、免疫がついたかどうかはどのように確認できるか • ワクチンを接種しても子宮頸がんになることはあるか • なぜ公共のメディアで啓発されていないのか • どこで接種できるか接種の費用はいくらか • 医療保険を使って接種できるか、できる場合はどの病院でできるか 				
子宮頸がん検診	<ul style="list-style-type: none"> • どの検診方法が1番有効か • 18歳でも検診を受けることができるか • 妊娠中でも検診を受けられるか • 検診はいつ受けるのが適切か(月経前、中、後) • ワクチン接種後でも、検診を受ける必要があるのか • 独身で性交渉がない場合でも、検診を受ける必要があるのか • 閉経後でも、検診を受ける必要があるのか • 自己採取はどのようにやるのか、キットはどこで購入できるのか • 検診は何歳になったら終了してよいか • 検診で陽性だった場合の治療は何か • Thermal ablationやLEEPはどのように行うか • Thermal ablationやLEEP後に妊娠はできるか • 妊娠中に検診で陽性だった場合も治療できるのか • 検診はいくらかかるか • 検診と治療は無料で受けられるか • 医療保険を使って検診を受けられるか、受けられる場合はどの病院でできるか • 保健省は検診を無料で提供する計画があるか 				
4. 子宮頸がんの症状	<ul style="list-style-type: none"> • HPV感染→前がん病変→浸潤がんのどの段階から症状は出るのか • <u>(以下の症状がある場合、子宮頸がんの可能性はあるか?)</u> : 全く帯下がない、白色帯下がある、月経痛がある、外陰部の痒み、閉経後の出血、膣・骨盤の痛み出血が3週間続いている場合 				
5. 子宮頸がんの治療	<ul style="list-style-type: none"> • 子宮頸がんを自分で治療する方法はあるか • 高齢女性でも治療できるか • 妊娠中でも治療できるか • 子宮全摘をするのが正しい治療か • 放射線治療をしたら100%治るか • 治療をしたらどのくらいの割合の人が治癒するか • 治療にはいくらかかるか 				

産婦人科診療ガイドライン〈婦人科外来編 2020〉レクチャー企画 第4回セッション開催

2022年5月より、本事業計画における活動の1つ「カンボジア産婦人科学会のトレーナー能力強化」を目的として、JSOG 幹事医師メンバーが、日本産科婦人科学会の産婦人科診療ガイドライン〈婦人科外来編 2020〉のクリニカルクエストに沿ったレクチャー企画を定期的を実施しています。

2月18日、「妊孕性温存の希望・必要がある場合の子宮筋腫の取り扱い」(CQ216)をテーマに、第4回セッションが開催され、山口健医師(京都大学)、古宇家正医師(広島大学)、井平圭医師(北海道大学)がレクチャーを担当しました。カンボジア人医師約80名の参加があり、筋腫核出術の動画拝見後、質疑応答ではGnRHアゴニストの使用回数やレボノルゲストレル放出子宮内システムの効果など多くの質問が挙がりました。幹事医師が各々の勤務施設での状況を回答することで、日本国内では診療が標準化されていることが伝わったようです。カンボジアでも学会を中心に指針策定が進むことを期待したいです。

(国立国際医療研究センター 春山 怜)



最左列中段: 山口健医師(京都大学)、最左列下段: 井平圭医師(北海道大学)、左から3列目中段: 古宇家正医師(広島大学)

～ ミニコラム ～ HPV ワクチン定期接種化へ

カンボジアは、Gavi ワクチンアライアンス(予防接種の導入・普及を目的とする官民パートナーシップ)の支援対象国であり、この国際機関を通じて HPV ワクチンの導入が予定されています。2017年にシェムリアップ州とスバイリエン州の一部地域でパイロットが行われましたが、その後は世界的な HPV ワクチン不足と新型コロナ流行の影響で、導入が遅延されてきました。近年 HPV ワクチンの需給バランスが改善傾向にあること、また新型コロナに伴う国内の各種制限が撤廃されたことから、2023年中旬以降に定期接種化の方針が示されました。9歳女子を対象に、2価ワクチンの1回接種(※)が予定されています。小学校での集団接種であり、プノンペン市内では本事業のポジティブな影響が期待されます。

※2022年12月にWHOの [HPV ワクチンに関するポジションペーパー](#) が改定され、接種回数の推奨が、「9-20歳では1回または2回、21歳以上は2回」となりました。複数の研究結果から、1回接種は2回接種と同等の効果・持続性を有することが分かりつつあり、プログラム実施上の利点が大きく、より効率的に接種率の向上が期待できるとしての判断です。イギリス、オーストラリア、メキシコなどの国々が、1回接種に切り替え済または予定しています。